

ようきてちょーた瀬戸!

「ようきてちょーた」=瀬戸弁で「よく来てくれたねえ」の意味

作成:瀬戸市おもてなしボランティア
季刊誌作成チーム

発行:瀬戸市 まるっとミュージアム課

01 平成18年8月28日発行



瀬戸の中心から まちを眺める

2005年、万博に先駆けてオープンした新名所の「パルティセと」と「瀬戸蔵」。この上層階あるいは展望台から見る瀬戸市街は、まさに圧巻と言えます。清流の戻った瀬戸川のせせらぎと陶磁の橋、流れを挟んで兩岸の拡幅された道路と新装なった商店街、繁栄時の名残を留める町屋等々。今まで気付かなかった瀬戸のパノラマが眼下に現れます。さながら鳥になった気分です。「瀬戸散策絵図」と見比べてしまいます。



パルティセと 5階から東方 瀬戸蔵 方面を望む



瀬戸蔵の展望台から西方、パルティセと 方面を望む

かつて、幾多の画家や写真家を惹きつけた瀬戸。いまは煙突の林立こそありませんが、この地を訪れた彼らの心象が納得できる気がします。時代はマンションの²²²屹立に代わってしまっても、東方に迫る丘陵の緑樹と西方に広がる一望千里の雄渾な眺めは値千金です。この風土こそ瀬戸の原風景なのです。まるっとミュージアムの「瀬戸」を訪れた皆様、市民の方々にも、ぜひ、瀬戸の真ん中からまちを観て欲しいお薦めのスポットです。(細矢)

「瀬戸散策絵図」...瀬戸中心市街地の観光マップ。パルティセと1階おもてなしボランティア観光インフォメーションブースや尾張瀬戸駅、市内施設などで配布しています。

「パルティセと」	〔住所〕 栄町 45	〔電話〕 (0561)97-1166	〔開館時間〕 8:30~21:30
	〔休み〕 年末年始(臨時休館あり)	〔駐車場〕 有(100台)	
「瀬戸蔵」	〔住所〕 蔵所町 1-1	〔電話〕 (0561)97-1555	〔開館時間〕 8:30~21:30
	〔休み〕 年末年始(臨時休館あり)	〔駐車場〕 有(190台)	

「パルティセと」「瀬戸蔵」ともに、駐車料金は入庫後1時間まで無料、その後100円/時間がかかります。



「作ってみよう私の作品」

～瀬戸で一度は陶芸体験を！～

ろくろ、手びねり、絵付け体験ができる

新世紀工芸館

住所:南仲之切町 81-2

電話:(0561)97-1001

時間:10:00～18:00

休み:火曜日

備考:陶芸教室は、第1・3日曜日の10:00からと14:00からの2回開催。定員8名。(ろくろは6名)予約必要。(希望日の6か月前から当日13:30まで電話にて予約受付)



名鉄尾張瀬戸駅からも近く、研修生が丁寧にめんどろを見てくれるので2Kgの粘土で存分に創作が楽しめました。作品は二つ、釉薬を指定して焼いてもらえます。ろくろ体験は1,600円ですが、粘土代、釉薬、焼成までと考えるとたいへんお得です！朝10時からお昼過ぎまでの半日間、実際に体験してみて、予想以上の充実感が味わえました。ガラス工芸教室もあり、お気に入りの器を選べる喫茶店や研修生の作品展示・販売もしているので、多方面で楽しめます。皆様も一度は新世紀工芸館で作陶体験してみませんか！！(田坂)



「ちょっとひと休み」

～おすすめ休憩スポット～



窯のひろば

住所:朝日町 11

電話:(0561)85-6282

時間:10:30～17:00

休み:水曜日

NPO 法人エム・トゥ・エム のHP

<http://kamanohiroba.com>

イベント情報も掲載しています！

お買い物や散策に疲れたあなたに、一休みスポットの紹介です。銀座通り商店街を深川神社に向けて歩いていくと、左側に今回のお奨めスポット“窯のひろば”があります。通りに面して、大きなテント広場があり、その奥には天井の高い開放的な空間が広がっています。ここはNPO 法人エム・トゥ・エムが基礎から手作りでやっているお店、というより交流ひろばです。手作りの小物も展示・販売されていて、お茶やコーヒーを飲んでおしゃべりをしながら、ゆったりとした時を過ごせます。(牛島)



「これが瀬戸のうまいもん」

～瀬戸っ子も納得の味～



尾張瀬戸駅から銀座通り商店街を目指して歩いていくと、商店街入り口左手側に「うおかね」さんがいます。地元ではうなぎが評判のお店。というわけで代表メニューの「ひつまぶし」と「石焼うなぎまぶし丼」を注文。「ひつまぶし(1,890円)」は織部の菓子器に盛られ、見た目も華やかです。少し味の濃いたれがお茶漬けに本当によく合います。



見た目も鮮やか「ひつまぶし」

「石焼うなぎまぶし丼(1,470円)」はよく焼けた石の器に装われて登場。香ばしい匂いが食欲をそそります。何故か小皿にはコチュジャンが。ピピンバのように混ぜ合わせて食べてみると、なるほどこれは美味しい。ご飯のおこげとパリッと焼かれたうなぎの皮の食感に、ピリッとくるコチュジャンが味覚を刺激し、何杯でも食べれそうです。瀬戸焼の器を目で楽しみながらのうなぎ料理は、まさに五感で食べる感覚で、是非おすすめしたい一品です。(蒲谷)



おこげが香ばしい「石焼まぶし丼」

「うおかね」 【住所】 朝日町 32 【電話】 (0561)82-2979
【営業時間】 11:00～14:00、17:00～20:00
【定休日】 水曜、第3火曜(祝日の場合は営業)【座席】 24席 【駐車場】 2台



「瀬戸に来たらこれ買わなきゃ！」

～瀬戸の名物おみやげ～



1枚840円。送られた人はビックリすること間違いなし！

陶板はがき～せとでんバージョン～

10月15日(日)まで瀬戸蔵ミュージアムにて開催されている「101年目のせとでん展」にちなんで、今回オススメするのは、名鉄瀬戸線の電車が描かれた磁器製のはがき。なんと、定形外郵便(200円)として、実際に送ることもできます！旅先からの手紙として、裏面にメッセージを添えてご家族やお友達に送ってみてはいかがでしょうか？また、はがきとして使用後は壁飾りやコースターと

してもお使いいただけます。描かれている絵は瀬戸市在住の版画家・水野アー(あいち)さんの素朴であたたかいイラスト。(せとでん以外の絵柄もあります)「101年目のせとでん展」では水野アーさんの木版画展も開催していますので、ぜひお立ち寄りください！(増田)

陶板はがきのお求めは 【住所】 蔵所町 1-1(瀬戸蔵 1階) 【電話】 (0561)89-5758
「瀬戸蔵セラミックプラザ」 【営業時間】 10:00～19:00 【定休日】 なし(瀬戸蔵が臨時休館のときは休み)



見つけた！瀬戸の愉快人 ～めだかを育てて40年！～

瀬戸市商店街連合会の理事も務める傍ら、めだかの飼育を始めて早40年という久野さん。まだ独身のころ、近くの深川神社で5匹のめだかを買ったのがきっかけ。今では、発泡スチロール箱15個を使い、約8,000匹のめだかを飼ってみえます。これほど多くのめだかを飼育している人は、あまりいないでしょうね。小学校、幼稚園、保育園の子どもたちや近所の人からも欲しいとの要望があり、毎年100人ぐらいに差し上げています。子どもたちからも、「めだかの学校の校長先生」と呼ばれている久野さん。犬や猫と同じように、めだかも飼ってみると、病み付きになるそうです。朝、1回のえさを与えるだけで済むので誰でも簡単に飼えます。でも、きれいな水に保ってあげることが元気なめだかの秘訣とか。昔、めだかはどこでも見かけましたが、今は絶滅危惧種になっているそうです。きれいな川の代名詞とも言える「めだか」が瀬戸の川でもたくさん見ることが出来る日が来るといいですね。(速水)

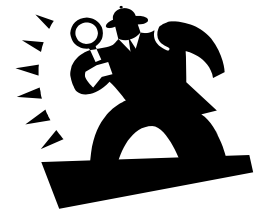


京染め・呉服「久屋」店主

くのおさむ
久野 収 さん

あなたもこれでちょっとしたやきもの通?!

やきもの豆知識探偵団



【陶器と磁器の見分け方】

陶磁器は陶器と磁器の総称で一般に「やきもの」と呼ばれています。どちらも粘土を成形して窯で焼き上げますが、原材料の違いで全く趣が異なります。しかし、それぞれ気品や実用性を持ち合わせ、美術陶芸品の鑑賞から食器などの日用品まで幅広く生活の中で活用されています。瀬戸では陶器のことを「土やき」と言います。地元産の上質な陶土が原料で「うわぐすり」を掛けて窯焼をすると美しく発色し、素朴で温かみのある土の肌合いを引き出します。また磁器は「石やき」と言います。瀬戸では陶石という材料に粘土を混ぜて原料とすることが多く、これを窯焼すると素地が純白になるので美しい図柄や色絵を描くことが出来ます。「土やき」と「石やき」の一般的な見分け方を表にしてみました。やきものはその原料や造り方を少しでも識ることにより、味わい方や楽しみ方も倍加して奥深いものです。(高梨)

見分け方	土やき(陶器)	石やき(磁器)
色 (素地肌の色を見る)	有り(茶色系)	白色
音 (指先ではじいてみる)	鈍い音	金属的な音
光 (明るい方へ透かしてみる)	光を透さない	透けて見える感じ
重み (手に取ってみる)	重厚な感じ	軽量感



瀬戸の歴史体感スポット

～ 窯神神社と民吉を支えた瀬戸の英雄達～

名鉄「尾張瀬戸駅」の北、窯神山頂に建つ磁器生産の技術を九州から瀬戸に伝えたといわれる「磁祖加藤民吉」を祀る御存知「窯神神社」。そこには民吉翁の銅像と共に「津金（文左衛門）胤臣父子」の頌徳碑と「加藤唐左衛門高景」の頌徳碑が建っています。この2つの石碑に刻まれている人達こそ「民吉」を通して瀬戸を救い、瀬戸磁器の発展と繁栄に貢献した“瀬戸”最大の恩人であるといえましょう。



窯神神社に建つ「磁祖・加藤民吉」の銅像



「津金（文左衛門）胤臣父子」の頌徳碑



瀬戸庄屋「加藤唐左衛門高景」の頌徳碑

享和年間、窯元世襲制により長男吉右衛門に家業を譲り失職した陶工吉左衛門、民吉父子は、名古屋の熱田新田で開墾作業中、時の熱田奉行「津金文左衛門」と知りあい“磁器製造”に関わる事となります。そして窮乏する瀬戸の陶器産業を救う為、民吉は九州へ渡り、約3年間「磁器製造技法」を習得しました。この間、瀬戸庄屋の「加藤唐左衛門」は「民吉」帰国を待ちわびながら、より良質な“磁器製品”が出来る様、「丸窯」の改良、「土原料」の配合、「釉薬」の調合等、日夜研究に努力しました。この結果、「民吉」帰国後、彼の習得した技法と、「唐左衛門」が研究を重ねた「原料土や釉薬」、さらには丸窯の「焼成室の改良」等が見事に実を結び、素晴らしい「瀬戸物磁器」が初めて完成し、瀬戸は名実共に日本一の陶磁器生産都市となりました。“瀬戸を救った”「文左衛門」と「唐左衛門」の2人は英雄として後々まで語り継がれる事でしょう。（水野）

「窯神神社」 窯神町 112

《一口メモ》 せともの祭りは磁祖・加藤民吉を偲ぶこの窯神神社の神事。登り窯を模した珍しい社も一見の価値あります。

私が好きな瀬戸の景色

I Love SETO. Because ...

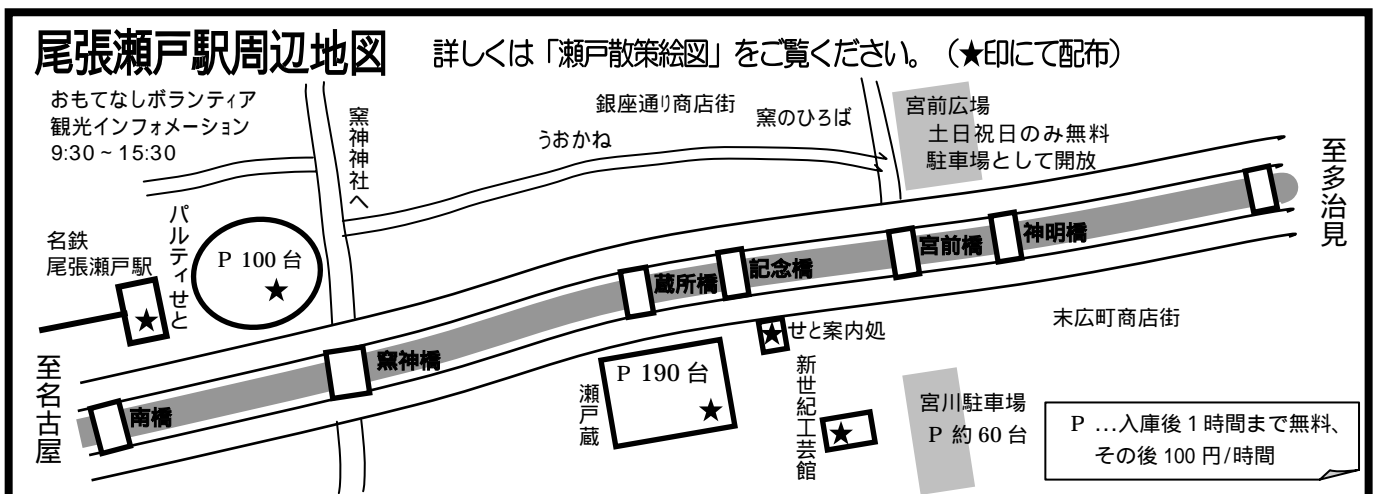
その昔、川の白い濁りが景気のパロメーターと言われた時代もありました。水質汚濁防止法や、環境問題に真剣に取り組む市民の努力によって、少しずつ清流が戻ってきました。魚が住み、カルガモ、白鷺が飛び交う姿も見受けられるようになりました。この瀬戸川には、陶器の街ならではのいろいろな趣向を凝らした橋が続きます。ねずみ志野の柱に草花が描かれた東橋、黄瀬戸の陶版に十二支の宮脇橋、染付けのモザイクタイルがモダンな神明橋、江戸時代の陶器造りの様子が見られる宮前橋には欄干に狛犬も、緑鮮やかな織部の南橋、欄干全体が織部の作品となる芸術的な吉田橋、そして、大きな陶板に染付けで瀬戸の風景が描かれた今村橋、等々。また、50mにもおよぶ有名作家の陶壁、子供達の自然に対する夢や願いを込めた100m程のふれあいの大陶壁なども川に彩を添えます。このようにして、瀬戸川を中心に素的な街は広がって行きます。名古屋から東へ瀬戸電で約30分のこの場所で、目と心の体操はいかがですか。(飯田・清水)



作陶風景が描かれた「宮前橋」



カラフルな絵が楽しい「ふれあいの大陶壁」



《編集後記》 愛・地球博開催期間中、瀬戸に訪れた方をおもてなしするために発足した「おもてなしボランティア」の活動が、万博終了後も約400名のボランティアさんによって引き継がれています。この季刊誌もそんななかから生まれた新しい「季刊誌チーム」のメンバーにより作成されました。朝5時から取材に行ったり、何度も何度も原稿を書き直したりと苦労していただいた分、発行に漕ぎ着けたことは、とても感慨深いものです。個性いっぱいの楽しい誌面、どうかじっくりお読みくださいね！今回は瀬戸市の中心市街地の情報を中心ですが、10月中旬発行予定の次号は市街地周辺情報となりますので、お楽しみに！（事務局・増田）

（瀬戸市おもてなしボランティア事務局）

瀬戸市役所 まるっとミュージアム課 〒489-0813 瀬戸市蔵所町1-1

TEL: 0561-88-2541 FAX: 0561-97-1557 E-mail: marutto@city.seto.lg.jp

